

利 南 東 小 学 校

所在地 〒378-0003 沼田市上久屋町2135番地
電話番号 22-3006 FAX 22-0784
校長名 秋元 秀文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 【基本目標】社会の変化に主体的に対応できる豊かな心、高い知性、強い意志を備え、生き生きと自己表現でき、心身ともにたくましい実践力のある子どもを育成する。
- 【具体目標】○すすんで勉強する子（自ら考え進んで勉強する子）
○思いやりのある子（他人の気持ちになって考え、助け合う子）
○心身ともに健康な子（元気に明るく毎日を過ごせる子）
○ねばり強くやりぬく子（目標を持ってしっかりがんばれる子）

2 経営方針

- 【基本方針】児童・職員ともにお互いを思いやり、感謝し合える学校（チーム利南東）
【TONAMIプライド】（「じぶん・ともだち・がっこう・となみ」のいいところ）
〈R7手立ての重点「ともに」をキーワードに以下の内容を包括的にとらえる〉
・いろいろなひとと「ともに」「子ども」⇔「教師」⇔「保護者・地域」
・いろいろな学びと「ともに」「教科・単元」⇔「道徳」⇔「特活」⇔「総合」⇔「行事」

(1) 目指す学校像 『思いやりにあふれた学校』

- ①子どもが自分を大切に、友達・学校・地域を思いやる学校
- ②教師が、子ども・学校・地域を思いやる学校
- ③子どもを一番に考える学校（子どもの目線・子どもファースト）
- ④保護者・地域から信頼・応援される学校

(2) 目指す教師像 『子どものよさを見つけ、自主性を育む教師』

- ①互いに気遣い、「自分のこと」として考える教師
- ②理論だけでなく、「まず動く」教師（率先垂範・師弟同行）
- ③本質を見つめ、「目的と手段」を区別する教師

(3) 目指す授業像 『子どもが中心で、教師は補助する授業』

- ①児童が自主性を発揮し、自分から進んで取り組む授業
- ②「小さなハードル」と「成功体験」を積み重ねる授業
- ③「日常生活」と結び付け、「ゴール」が明確で、「見通し」がもてる授業

3 本年度の重点施策

- (1) ICTを活用した確かな学力の向上（「知識・技能」と「自分の考え」を両輪に）【わくわくスクール沼田】【家族で本を読みましよう】
 - ・教科担当制の活用による専門性を生かした指導の向上と多面的な生徒指導の充実
 - ・繰り返し学習の徹底による「基礎的な知識・技能」の確実な定着
 - ・「自分の考えや思い」を基盤にした問題解決的な学習（TONAMIスタイル）の継続的な実践による思考力・表現力の育成
 - ・専科教員とALTの積極的・計画的な協働による外国語活動及び外国語科の授業の充実
 - ・家庭との積極的な連携による自主的に学習に取り組む自立した学習者の育成
- (2) 安全の確保と健康の保持増進（子どもの命を徹底的に守る）【セイフティ沼田】
 - ・命を守るため、登下校と緊急時の安全確保（通学路の安全点検・登下校の行動指導）
 - ・新型コロナウイルス等、感染症対策の徹底（保健活動の充実・家庭との連携強化）
 - ・全校体制による「体力向上プラン」の計画的な推進（運動機会の意図的な設定による運動量の確保）
- (3) 豊かな心の育成【児童生徒の命を守り、育てる教育】
 - ・自他を大切にしている指導の推進（お互いの存在価値を高める指導と支援）
 - ・「考え、議論する道徳」の一層の充実（教材研究の深化と考えを揺さぶる発問の意図的な設定）
 - ・特支コーディネーターを中心に、全教職員が参加意識をもって組織的に関わる特別支援教育の充実
 - ・「集団の合意形成」と「個人の意志決定」を重視した体験活動の計画的な実施
- (4) 家庭・地域、幼・中との連携【幼小中連携】【沼田市SNSルール】【めまた未来創造学】
 - ・保護者との意図的・積極的・計画的な連携（互いに顔が見える関わりの実現）
 - ・各種たよりやWebページによる家庭や地域への情報発信の充実
 - ・「地域で育てる地域の学校」の実現（PTA・学校支援ボランティアとの協働）
 - ・外部機関と積極的に連携した教育相談の充実（SC・SV・SSW・福祉部局）
- (5) 全教職員の経営参画と職能成長
 - ・組織的で日常的な情報共有と迅速な対応の実現（危機意識、報告・連絡・相談・確認・記録）
 - ・各主任が中核となる組織的な分掌運営の充実と職能成長・心理的安全性の両立を目指した職員間の協働体制の構築
 - ・教育公務員としての高い倫理観と日常における服務規律意識の向上（子どもに背中で語れる教師）
 - ・業務削減と効率化、働き方改革の継続と一層の充実（時間外勤務の削減と退庁時刻管理の徹底）

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自他を大切にし、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成
副主題 ～お互いを思いやる活動を通して～

子どもの実態との関わり

- ・ 様々な表現活動を取り入れることによって、互いの考えを伝え合うことが少しずつできるようになってきた。
- ・ 基本的な学習内容の定着が不十分である。自分の考えを適切に表現できる児童もいるが、表現力の不足からか、自分の気持ちを上手に相手に伝えることができない児童や、相手の気持ちを考えた行動のできない児童もおり、友達のことを傷つけてしまう場面も見られる。

指導の在り方や研修との関わり

- ・ お互いに思いやることを大切にしたコミュニケーションを重視し、伝え合い、分かり合うことができるように、考えや気持ちを適切に表現する手立ての工夫や安心して話せる環境づくりを行う。
- ・ 課題解決の手段として、児童がじっくり考える場をつくるとともに、自分の考えを伝えたり、友達の意見に心を傾けて聞くことを意識させたりするなど交流の充実を図り、学習内容の定着を促す。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

【低学年】 思いやる活動を通して、自分の考えや思いをもち、自分の大切さや他の人の大切さに気付くことができる。

【高学年】 思いやる活動を通して、自分の考えや思いをもち、自分や他の人のよさを大切にして、考えを広げたり深めたりできる。

【特別支援】 思いやる活動を通して、自分の考えや思いを伝えたり、他の人の考えや思いを受け止めたりしようとすることができる。

(2) 共通実践する手立て

- ・ 「ちゅうしんかつどう」において「お互いを思いやる活動」を取り入れた問題解決型学習「TONAMIスタイル」の実施。
- ・ その教科等のねらいに併せて、人権教育で育てたい5つの能力・態度（感性・知性・技能・判断力・実践力）の観点の中でどの事項に重点を置いて指導するかを明確に押さえる。
- ・ 各教科や特別活動、総合的な学習の時間等の特性や児童の発達段階に応じて、異学年、縦割り、ペア、グループなどの多様な交流方法の工夫を行い、体験活動の充実を図る。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 「お互いを思いやる活動」の工夫をしていくことを通して、学習活動の中で児童の実態に応じて、対話的な学習を取り入れる効果的なタイミングが精選されてきた。
- ・ 様々な体験やペアワーク、グループワークなど協働的な学習の経験を重ねることによって、自他を大切にしようとする児童の言動が日常生活の中で見られるようになった。
- ・ 全校をあげての人権教育の取組によって、お互いを思いやり、よりよい人間関係を築こうとする力や自己肯定感を育むことができた。

○課題

- ・ 形式として人の話を聞く姿勢はできるようになってきたが、聞くことで学びをさらに深め、広げられるように工夫を重ねていく必要がある。
- ・ 自分に自信をもち、どの人にもやさしくできる人間に育っていくように、これからも取組を継続・発展させていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 児童一人一人が大切な存在なのだという事を伝え続けて、自他を大切にできる気持ちをより大きく育んでいくために、本年度の実施した授業や体験活動を人権全体計画や各教科等の年間指導計画に取り入れ、教科横断的に人権学習を進めるとともに持続可能な取組にしていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)〕
4. 3	研修推進委員会①	○研修主題・研修計画の原案作成、研修計画の検討
4. 21	研修計画の検討	○本年度の方針確認(主題、研究内容、研修計画など)、MIM 研修
4. 28	授 4年 算数「わり算の筆算(1)」 佐伯悠教諭(全体会)	○ペアワークを取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・お互いに説明し合ったことで、わからなかった児童も理解につながった。動作化や図示することで理解しやすくなった。
5. 19	研修内容の検討	○授業実践や人権教育活動に関する研修 ○指導主事訪問 A、人権教育研究協議会の検討
5. 28	指導主事訪問 A	○指導主事訪問 A、研修への指導助言
6. 16	人権教育推進研修報告 県教委等訪問の検討・確認	○人権教育推進研修の報告、県教委等への質問事項検討 ○LD 対応のための音声読み上げ教科書の使用法の研修
6. 23	授 5年 道徳「これって不公平？」 森山有紗教諭(高学年)	○心情メーターを使用した「お互いを思いやる活動」の工夫 ・他者の考えを知りたいと思う気持ちを向上させていた。グループ活動をうまく取り入れ、児童の活躍の機会を増やしたい。
7. 14	1 学期研修のふりかえり 県教委等指導助言共有	○1 学期の実践内容の確認、県教委等からの指導助言の共有
7. 30	指 低学年ブロック研修	○ブロック別に研究授業指導案作成・検討①、2 学期以降の「思いやる活動」の改善、検討
8. 7	指 特別支援ブロック研修	
8. 25	指 高学年ブロック研修	
9. 5	研修推進委員会②	○ブロック別研修の共有、2 学期の研修計画の確認
9. 22	CAP(子どもの暴力防止プログラム)研修	○虐待等の防止に向けて CAP ぐんまによる講習
9. 24	特別検討会	○県教委等から人権教育研究に関して指導助言
	授 1年 道徳「どちらがいいかな」 大滝彩水教諭(低学年)	○役割演技を取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・様々な場面において他者の気持ちを考える機会を増やすため有効だが、いつ行うかによって効果が違うことが分かった。
	授 6年 道徳「杉原千敏～大勢の命を守った外交官～」 本田千結教諭(高学年)	○行動の結果を考える場面での「お互いを思いやる活動」の工夫 ・発問を精選したことで、ねらいとする道徳的価値について、児童が多角的・多面的に考えることができた。
	授 わかば(情緒)自立「ぼかぼか言葉をつかってすごろくゲームをしよう」 岡村和佳奈教諭(特別支援)	○相手への反応の仕方考える場面での「お互いを思いやる活動」の工夫 ・心があたたかくなる言葉を視覚的に掲示することで、児童が伝える言葉を意識して発言する手助けとなった。
10. 7	授 3年 総合「りんごについてもっと知ろう」 永井翔馬教諭(低学年)	○付箋を使用した「お互いを思いやる活動」の工夫 ・聞く姿勢、環境を整えることが大切で、伝わる発表の工夫が必要であることが分かった。
10. 22	研修推進委員会③	○研究協議会当日の役割や動線、発表内容の確認
10. 27	指 研究授業指導案の検討等	○研究授業指導案検討②、人権アンケート項目検討
10. 30	授 わかば(知的)国語「もっと知りたいともだちのこと」 春原亜由美教諭(特別支援)	○相手の話を聞く場面での「お互いを思いやる活動」の工夫 ・子どもたちが発言した言葉を使いながら進めることで、理解しやすく、意欲的に取り組むことが分かった。
11. 12	授 わかば(情緒)自立「ぼかぼか言葉をみつけよう」 松井詩織教諭(特別支援)	○指示カードを使用した「お互いを思いやる活動」の工夫 ・課題を一つに絞ることで、複数の意見を引き出し、間違いに気づき協力して考える姿勢を生むことが分かった。
	授 2年 道徳「くりのみ」 木内玲雄教諭(低学年)	○役割演技を取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・ねらいに沿っためあてや学習形態を適切に選択することで、より道徳的価値について深められることが分かった。
11. 17	指 ブロック別指導案検討、「思いやる活動」とりまとめ	○人権授業指導案検討③、「思いやる活動」のとりまとめ
11. 18	授 通級 自立「めざせ九九マスター」 小林庸子教諭(特別支援)	○安心安全な環境整備による「お互いを思いやる活動」の工夫 ・安心安全の場や関係性をベースとした学習展開と特性に合った学び方を工夫することで苦手な学習への意欲を引き出した。
11. 19	授 4年 理科「閉じこめた空気と水」 星野勇教諭(高学年)	○実験における班活動を取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・実験を全員が行うように指示したり、黒板に提示したりしてあったため、全員が目的意識をもって取り組むことができた。

11.28	授 3年 図工「トントンどん どんくぎうって」 原泰章教諭（低学年）	○事例の体験を取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・事例を遊ばせ比較することで、気づきを班で共有したり、制作 したいものを自己決定したりすることにつながった。
12.2	地区別人権教育研究協議会 授 1年 道徳「しんせつにする ために」 尾形あや教諭（低学年）	○人権教育研究協議会（研究授業、指導助言および共通理解） ○役割演技を取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・自分だったらどんな言葉をかけるかを考えさせることを通し て、相手のことを考え優しく接することの大切さについて考え を深めることができた。
	授 4年 道徳「いろいろな食べ 方」 原澤涼香教諭（高学年）	○役割演技や対話を取り入れた「お互いを思いやる活動」の工夫 ・アンケートで授業前の児童の考えを示したり、役割演技で主人 公の気持ちを考えたりしたことによって思い込みや偏見につ いて児童が深く考えることができ、意見交流を活発に行えた。
	授 わかば（知的）生単「ポッ プコーン屋さんをしよう」 阿左見成美教諭（特別支援）	○ロールプレイや反応カードを使用した「お互いを思いやる活動」の工夫 ・相手意識をもって考えてロールプレイをしたり、反応カードを 使ってよいところを認め合いながら話し合ったりすることで 気持ちのよい言葉のやりとりを考えることができた。
12.22	本年度研修のまとめ	○研究会での指導助言等をふまえた今年度の研修の成果と課題 ○「沼田市の教育」について
12.25	人権教育研究懇談会	○人権教育研究「学校教育の取組」について発表
1.19	本年度のまとめと次年度の研 修について	○本年度の取組のまとめ、次年度の方向等について
2.2	研修推進委員会④	○次年度の研修主題・副主題の仮決定
2.16	次年度の研修について	○次年度の方向性の確認

5 資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
4.14	ア 授業改善	情報主任 原 泰章	・ICT研修。デジタル教科書、グーグルクラスの活用
4.21	ア 授業改善	学力向上コーディネーター 阿左見 成美	・多層指導モデルMIM活用に関する研修。読みのアセス メント指導や、学習へのつまづき予防的支援の方法
4.28	エ 学校保健・ 食育	養護教諭 中條 恭子	・エビペン及び糖尿病に関する研修。食物アレルギーの 対応やエビペン使用法、てんかん・糖尿病対応の演習
7.18	カ 特別支援教 育	渋川中教諭・臨床発達心理士 佐藤 雅次	・特別支援教育研修・ケース会議。コミュニケーション に困難さがみられる子どもの理解と支援
9.2	イ 生徒指導	スクールカウンセラー 阿左見 康成	・人権意識を高めるためのSST研修。具体的な事例をも とに思いやりをもった友だちとの関わり方について。
9.22	イ 生徒指導	CAP ぐんま	・CAP（子どもの暴力防止プログラム）研修。子どもへの 暴力防止について。CAP ぐんまの活動など
10.1	カ 特別支援教 育	群馬大学教授 霜田 浩信	・特別支援教育研修。具体的なケースをもとに学びにく さを抱える児童への支援

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	秋元 秀文	教諭	原澤 涼香	教諭	小林 庸子
教頭	田島 晃代	教諭	森山 有紗	養護教諭	中條 恭子
教諭	原 泰章	教諭	本田 千結	事務主任	小林 真位
教諭	尾形 あや	教諭	春原 亜由美	生活相談員	能登 さつき
教諭	大滝 彩水	教諭	阿左見 成美	支援員	吉野 久子
教諭	木内 玲雄	教諭	松井 詩織	支援員	丸田 裕子
教諭	永井 翔馬	教諭	岡村 和佳奈	支援員	須田 政子
教諭	佐伯 悠	教諭	星野 勇	用務員	金井 雅之

池田小学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9320 FAX 0278-23-9369
校長名 井熊 美保

I 学校の経営

1 学校教育目標

【基本目標】 自ら考え 正しく判断し 行動できる 子どもの育成

【具体目標】 (知) 自分から進んで学習できる子ども

(徳) 思いやりのある子ども

(体) 体を鍛える子ども

2 経営方針～いけだ力を発揮して、みんなが主役の学校～

【めざす学校像】

- 児童が楽しいと思う学校
- 保護者・地域が信頼する学校
- 教職員が生き生きと働く学校

【めざす児童像】

- いつも元気なあいさつ
ができ、よく考え、率先
して行動できる児童

【めざす教師像】

- 「革新」を楽しみ、「本質」を
追究する姿勢をもつ教師集団

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成 【自分から進んで学習できる子ども】

①学習内容への興味や関心を高める「めあて」と児童が「何を」「どのように学び」「何がわかったのか」を自覚できる「振り返り」の設定を徹底した授業づくり。

②「池田小よい子のやくそく」を活用した学習・生活習慣の徹底による安心・安全な環境の醸成。

③地域の教育力を生かした体験的な探究活動の推進による、児童が自ら課題を解決する学習の設定。

【ぬまた未来創造学】 【わくわくスクール沼田】

(2) 豊かな心の育成 【思いやりのある子ども】

①道徳科の授業を要とし、命の尊さやいじめを許さない心の育成に努めると共に、地域の方との交流体験を生かし、思いやりや協力、郷土愛などの道徳的実践力の向上を図る。

②日常生活の中で「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の機能を生かした指導を意図的に行い、自己肯定感や自己有用感を高める。学級が児童にとって安心で安全な場所になるよう学級経営に努める。

【児童生徒の命を守り、育てる教育】

③朝読書、朝の読み聞かせの充実と図書室の利用拡大を通して、家庭と連携した読書の習慣化を図る。

【家族で本を読みましよう】

(3) 健康・体力の向上 【体を鍛える子ども】

①家庭との具体的な連携を図ることで、基本的な生活習慣、感染防止対策、望ましい食習慣を身に付けさせ、心と体の健康づくりを推進する。

②児童の目線での健康・安全指導に努め、地域・保護者と連携しながら、あらゆる機会を通して、自尊感情や危険予測・回避能力を高める。

【児童生徒の命を守り、育てる教育】

(4) 家庭・地域・小中との連携

①きめ細かな情報発信に努め、家庭、地域と積極的な連携を進めると共に、自然災害時の安全管理マニュアルの周知、各種訓練を通して危機管理を徹底し安全の向上を図る。

【セイフティ沼田】

②地域・小中の連携を進め総合的な学習の時間を中心にした一貫性をもった教育課程の実現や同一歩調の生徒指導により、教育効果を高める。

【幼保小中連携】

③沼田市学校再編に向けた円滑な統合のために市、地域、中学校と連携を進める。

(5) 特別支援教育の充実

①児童一人一人の良さを見取り、特別支援教育の視点を大切にされた指導を教育活動全体で徹底する。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研 修 主 題 ～

主題 自ら学ぼうとする意欲をもち、互いに考えを深める児童の育成
副主題 ～探究的な学習を通して「いけだ力（ちから）」を育む授業づくり～

指導の在り方との関わり

- ・ 考えの深まりや非認知能力の高まりを振り返りの場面で自覚させたい。
- ・ 昨年作成した総合的な学習の時間の単元を実践したり見直したりし、より児童が主体的に活動できる内容にしたい。

子どもの実態との関わり

- ・ 考えを深める児童や非認知能力の高まりを感じている児童はいるが、自覚していないことが多い。
- ・ 答えが一つではない課題に、挑む児童が増えてきたが、臆する児童もいる。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

いつも元気なあいさつができ、よく考え、率先して行動できる児童 ～「いけだ力」の発揮～

【い】挑む力（自分と向き合う力）

【け】継続する力（自分を高める力）

【だ】大好きを見つける力（他者とつながる力） 自分の大好きを見つける・友だちの大好きを認める

(2) 共通する手立て

①考えを深める場面

- ・ お互いに理解し合えるよう、ねらいを明確にして交流する。
- ・ シンキングツールなどを使って考えを視覚化し、整理・比較がしやすくなるようにする。

②振り返りの場面

- ・ 振り返りの視点を示し、考えの深まりや非認知能力の高まりを自覚しやすくなるようにする。

③地域交流で学びを広げる授業の実践及び見直し

- ・ 「めまた未来創造学」の具現化のために、探究意欲が高まる課題になるよう昨年度作成した総合的な学習の時間の年間計画を実践したり見直したりする。
- ・ 地域人材や地域学校協働本部を中心とした、地域の人材や教材等を活かした探究的な学習を取り入れた授業作りを行う。
- ・ 学校間連携によるオンライン交流で、学びを発信することで体験を広げ、探究への意欲を高める。

3 研修計画・経過報告〈裏面〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 「いけだ力」の浸透によるめあての焦点化・明確化や、「いけだ力アンケート」による自己認識(メタ認知)の場の工夫により、非認知能力の高まりを自覚できる児童が増えた。
- ・ 「いけだ力グラフ」を使った振り返りを行うことで、メタ認知ができる児童が増えた。
- ・ ギミックブラッシュアップシートや「いけだ力アンケート」で子どもの具体的な姿をイメージしたり変容をみとったりして指導に活かすことができた。
- ・ 地域の人材や教材などを活かした探究的な学習を取り入れたことで児童の探究への意欲が高まった。

○課題

- ・ 総合的な学習の時間の年間計画を実践する中で、体験やまとめの活動の時間配分に課題があった。
- ・ 授業者のファシリテーターとしての役割に課題がある。

○今後の取組

- ・ 総合的な学習の時間の計画が探究課題の価値にどう結びつくのか考えて精査していく。
- ・ めあてに向けて児童の考えが深まるよう授業者がファシリテーターとなって児童の気づきを促し支えていく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)〕
4.10	研修計画の検討 (研修推進委員会)	○昨年度の研修内容の共通理解 ○本年度の研修主題、副主題、組織の検討 ○「学習のやくそく」、生活記録等の共通理解
4.21	今年度の研修の方向性の確認 (全体会①)	○研修テーマ、研修の方向性についての確認 ・教育水準授業者の決定
5.7	非認知能力について A 訪問について 「いけだ力」について (全体会②)	○非認知能力の共通理解 ○「いけだ力アンケート」の作成 ・アンケート項目と表記の検討、決定 ○A 訪問での指導案の共通理解 ・教科の検討、決定 ○ICT 活用で業務改善
6.16	学力検査について (全体会③)	○NRT 検査結果分析による反省と課題設定 ・分析したことを活用していく ○第1回「いけだ力アンケート」分析 ・今後「いけだ力」を意識させていく
6.30	指導主事訪問 A	○管理職による説明 ○指導主事による授業参観
7.18	A 訪問を終えて 1 学期の反省 2 学期の研修計画 非認知能力について	○A 訪問の指導を受けての課題 ○B 訪問に向けての見通し ○中山氏の講義 「小学校で非認知能力と認知能力を共に育てるために」 ・メタ認知(振り返り)、ギミックの重要性を確認
夏季休業中		○B 訪問に向けての指導案づくりと教材準備
8.27	学力向上フォーラムについて (全体会④)	○学力向上フォーラムの共有 ・授業づくりのポイント、指導主事の提言の確認
9.8	4年 総合 「ふるさとの伝統 文化・迦葉山の 魅力を伝えよう」	指 井田教諭 (全体会⑤)
9.10	教育水準向上研究授業研究会 について(推進委員会)	○指導案検討 ・授業のイメージの共有 ○「全国学力・学力状況調査を活用した授業改善説明会」の視聴
9.17	教育水準向上研究授業研究会 について(推進委員会)	○日程、授業研究会の検討
9.22		指 井田教諭 (全体会⑥)
9.22		○日程、授業研究会の確認 ○校内研修経過報告書の確認
9.22		○中山氏の講義の振り返りの共有 ○指導案検討を受けて討論 ・ブラッシュアップシート作成
10.6	4年 総合 「ふるさとの伝統 文化・迦葉山の 魅力を伝えよう」	指 井田教諭 " (全体会⑦)
10.6		○指導案検討後、プレ授業、ブラッシュアップシートの確認 ・効果的な会場づくり ・ICT 機器の設定の検討
11.10		指 井田教諭 " (全体会⑧)
11.10		○プレ授業を受けて最終討論 ・「いけだ力」を意識した振り返りになるよう視点の確認 ○教育水準向上研究授業研究会の役割確認 ○第2回「いけだ力アンケート」の日程確認
11.14	教育水準向上研究授業研究会 について(推進委員会)	○校内研修説明、授業説明の検討 ○第2回「いけだ力アンケート」分析、示し方の検討

★みんなで解決！
ちょこっと参観
(一人一授業)
・課題を感じてい
る場面を互いに
参観し合い課題
解決につなげた

11.18	2年算数 「かけ算」 	指田中教諭	○魅力的な課題設定、対話と交流など ・児童が試行錯誤し対話と交流を繰り返したことで、かけ算の式で表すことよきに気付くことができた。 ・導入を丁寧に行った分、振り返りの時間が少なくなってしまった。時間設定を再考するとよい。 
11.18	教育水準向上研究授業研究会 について(推進委員会)		○校内研修説明、授業説明の確認 ○第2回「いけだ力アンケート」確認
11.21	4年 総合 「ふるさとの伝統 文化・迦葉山の 魅力を伝えよう」   	授井田教諭 教育水準 授業研究会	○魅力的な課題設定、対話と交流、ICTの活用など ・3つの視点をもった教材研究、会場の設定、「いけだ力グラフ」などのギミックが効果的だった。 ・本物に触れる課題により、児童が本気で取り組んでいた。 ・交流の場面ではもっと児童に任せ、授業者はファシリテーターになるとよい。
冬季休業中		○2学期までの研修のまとめ	
1.26	「沼田市の教育」原稿について今年度の成果と課題 (全体会⑨)		○「沼田市の教育」執筆原稿の共通理解 ○今年度の成果と課題、指導のあり方と児童の変容のまとめ
1.26	小中一貫校に係る説明会 (池田小中合同研修)		○併設型小中一貫校についての共通理解
2.2	次年度の研修について (主題・内容・方法等検討) 学力検査について(全体会⑩)		○来年度の研修主題・内容・方法等について検討 ○CRT 検査結果分析による反省と課題設定
3.16	次年度の研修について (全体会⑪)		○来年度の研修主題・副主題、方向性について検討

★5・6月に一人一授業を行い、管理職と職員が参観し、成果と課題について討議する。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5.7	人事評価について	管理職	○評価目的の共通理解
6.16	熱中症対策 食物アレルギー対策	養護教諭	○低血糖時の対応について ○夏季休業前に熱中症対策の研修 ○食物アレルギー対応やエピペンの使い方について
8.26	服務規律について	管理職	○本校の実態を基にした服務規律の実例研修

〈 職 員 一 覧 〉

職名	氏名	職名	氏名
校長	井熊美保	教諭	小野修一
教頭	平井厚	教諭	井上和奏
教諭	真庭秀樹	養護教諭	角田美由紀
教諭	森下好美	事務主事	佐々木幸子
教諭	井田さやか	非常勤講師	田村美希
教諭	田中翔	後補充非常勤講師	細矢美佐子
教諭	渡邊克輝	生活相談員	金子尚美
教諭	狩野里紗	用務員	松井敦夫
教諭	齋藤理恵		

薄 根 小 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町32番地
電話番号 0278-22-2891 FAX 22-0785
校長名 大竹 敏之

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 【基本目標】 進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成
【具体目標】 ○進んで学ぶ子（自主・創造・根気）・・・知
○思いやりのある子（正義感・奉仕・博愛）・・・徳
○体をきたえる子（健康・安全・体力）・・・体

2 経営方針

【基本方針】 全教職員の力を合わせた指導と学校経営参画（一枚岩・同一步調）

【目指す学校像】 自信と誇りにあふれ、自分から動く学校

- (1) 子供が自分に自信をもち、友達・学校・地域薄根を誇りに思う学校
- (2) 教師が、子供・学校・地域薄根を誇りに思う学校
- (3) 子供を一番に考える学校（子供目線・子供ファースト）
- (4) 保護者・地域から応援・自慢される学校

<経営スローガン> 【Usuneプライド～つなぐ～】 「じぶん・ともだち・がっこう・うすね」のいいところ

『ひと』をつなぐ <子供>×<教師>×<保護者・地域薄根>

『学び』をつなぐ <教科>×<特活>×<総合>×<行事>

3 本年度の重点施策

(1) 「知識・技能」と「自分の考え」を両輪にした確かな学力の向上

- ① 「子供に任せる活動」を積極的に設定し、子供が自分で考えながら進んで学習に取り組む能力を向上させる。
- ② 学習内容を徹底して教え、何度も繰り返して習熟させる学習によって、「基礎的な知識・技能」を確実に身に付けさせる。
- ③ 「自己決定・自己選択」する活動を設定して「自分の考え」をもたせ、分かりやすく伝える活動を重ねることによって、「自分で考える力」を伸張させる。
- ④ 家庭学習について、家庭と積極的に連携し、「主体的な学習習慣」を伸張させるとともに、子供自身が自ら学習を調整する能力を向上させる。

(2) 安全の確保と体力・健康の保持増進

- ① 通学路の安全点検と登下校の行動指導を徹底して、登下校と緊急時の安全を確保し、児童の命を確実に守る。
- ② 運動の楽しさや喜びを味わえる「体力向上プラン」を基に、組織的・計画的な体力づくりを強力に推進して、児童の体力を確実に向上させる。
- ③ 学校保健委員会を核にした児童主体の保健活動を推進するとともに、家庭との連携を強化することにより、健康教育を充実させる。

(3) 全教育活動における豊かな心の育成

- ① 自分に自信と誇りがもてるような指導と支援を意図的・計画的に推進して、自己肯定感・自己有用感を着実に高める。（得意・好き・やりたい）
- ② 教材研究の深化による「ねらいの明確化」と「考えを揺さぶる発問」の意図的な設定によって、「考え議論する道徳」を一層充実させる。
- ③ 特別支援教育コーディネーターを中心に、全教職員が児童の「困り感」に寄り添う関わりを充実させることにより、当事者意識をもった組織的な特別支援教育を実現する。
- ④ 特質を踏まえた学級活動を計画的かつ確実に実施することにより、児童一人一人に自分の成長を実感させるとともに、支え合い、高め合う集団を実現させる。

(4) 家庭・地域の強みを生かした学校づくり

- ① 地域の資源を活用し、地域と連携した教育活動を積極的に推進することによって、Win-Winの関係を実現させ、「地域を愛し誇りに思う心」を育成する。
- ② 様々な場面で積極的・計画的に保護者と連携することによって、互いの顔が見える関わりを実現させるとともに、確固とした信頼関係を築く。
- ③ SC・SV・SSW・福祉部局等の外部機関と積極的に連携して、児童のよりよい成長に向けた教育相談、生徒指導、特別支援教育を一層充実させる。

(5) 全教職員の経営参画と職能成長

- ① 各主任が分掌業務の目的を明確にするとともに、コーディネーター意識を発揮し、全職員が関わる組織的な分掌運営を充実させる。
- ② 「報告・連絡・相談・確認・記録」を基盤にした日常的かつ組織的な情報共有と、課題解決に向けた迅速・確実・誠実な対応を充実させる。
- ③ 教育公務員としての高い倫理観と日常における服務規律意識を向上させ、「子供に背中語る教師」の姿を実現する。
- ④ 互いに信頼し合い、風通しがよく「心理的安全性」が高い職場の実現に向けて、教育活動の効率化と業務削減、働き方改革の一層の充実を図る。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 主体性をもって学びに取り組める児童の育成
副主題 ～「選べる自由」を取り入れた学習活動の工夫を通して～

子どもの実態との関わり

- ・与えられた活動に対しては素直な姿勢で真面目に取り組むことができる。
- ・選択肢がある活動に対して意欲的な取組が見られ、選んだ理由を書くことで考えが深まる姿も見られる。
- ・知識・技能面では地道な積み重ねにより各種検査等の数値も向上しているが、自分の考えをもち、自ら考えを深めようとする態度には課題が残る。
- ・自分で考える習慣が身に付いていない児童が多く、主体的なものごとに取り組もうとする姿があまり見られない。

指導の在り方との関わり

- ・主体性の育成に関わる「自己決定・自己選択」の場を意識した授業づくりが、教師側も不十分であり、児童の経験不足につながっている。
- ・学習の様々な場面において、「自己決定・自己選択」することのよさや自分で考えることの価値を実感させるための経験を多く積ませるようにはする必要がある。
- ・単元全体や一単位時間のねらいの達成に向けて、「自己決定・自己選択」の場づくり、「児童に任せる授業づくり」に教師自身がチャレンジする必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

- 【低学年】課題に対して、自分のやりたい方法を選んで学習に取り組める子
- 【中学年】課題に対して、自分のやりたい方法を選び修正しながら学習に取り組める子
- 【高学年】課題に対して、より良い方法を選択し、解決できる子

(2) 共通実践する手立て

- ・自分で決めて動き出す力を育成するために、学習の様々な場面において「児童が自由に選べる活動（場・方法・人数・順番・道具等）」を計画的に位置づけ（選べる自由）、「自己決定・自己選択」する活動を計画的に取り入れた授業づくりを行う。
- ・取組の基盤となる素地を育成するために、学習活動を中心に教育活動全般においてスモールステップで取り組める課題や活動を意図的に設定し、「小さなハードル」を乗り越える成功体験を積み重ねる。

3 研修計画・経過報告（下記）

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「選べる自由」を取り入れた授業づくりを意識的に積み重ねることができたことにより、児童自身が「自己決定・自己選択」することのよさを感じることができるようになった。
- ・いろいろな方法で課題解決をしたり、新しい課題にも既習事項を活用して取り組んだりする児童や、学び方や発表方法を自分なりに選択したり、工夫したりする児童が少しずつ増えてきている。

○課題

- ・「選べる自由」を取り入れた授業づくりの有用性は感じられるが、主題に示す児童の姿には個人差が大きく、さらに授業改善や工夫をしていく必要がある。

○今後の取組

- ・「自己決定・自己選択」の場づくりに加えて、「児童に任せる」場の比重をより大きくした授業づくりを意識していく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）]
4.11.	・今年度の研修の方向性の検討（推進委員会）	○今年度の研修の方向や組織について ・今年度の方向性や組織について確認した。
4.14.	・今年度の主題・副主題や	○今年度の基幹となる研修の方向や組織について

	研修内容についての検討 (全体会)	・ブロックに分かれ、共通の手立てをもとに実践していくことを共通理解した。
	・実践内容や研究授業について(ブロック)	○児童の実態や課題、共通の手立て、研究授業の計画について ・児童の実態や課題、共通の手立てについて確認した。
5.8	授1年富沢教諭 ＜学年代表＞ 生活「がっこうだいすき」	○就学前の園と学校の施設や人について比べたことは、学校をもっとよく知ろうとする気持ちをもち、自分たちで調べて学校探検をする活動につなげることができたか。 ・探検したい場所の選択肢がたくさんあったことで、主体的な活動につながった。探検したことを友達に伝える手段のアイデア例を提示しておく、教師が意図するところにより円滑に向かうのではないか。
5.19	・めざす児童像や手立ての共通理解、指導主事訪問Aに向けて(全体会)	○目指す児童像、共通実践する手立てなどについて ・目指す児童像や共通実践する手立て、研修副主題の定義付けを確認し、授業実践の方向性を明らかにすることができた。
5.23	・指導主事訪問A	○各教科での授業実践、指導主事による指導助言。
6.16	・授業改善について ・児童へのアンケートについて	○指導主事訪問Aの実践の成果と課題について ・指導助言や成果と課題について共有した。 ・主題、副主題に関わる児童アンケートの内容について検討した。
6.25	授6年小柳教諭 ＜学年代表＞ 体育「マット運動」	○課題解決の場をいくつか用意し、自己の課題に応じた解決の場を選んで、個別で課題解決に取り組ませる手立ては、めあてを達成するために有効であったか。 ・個別で課題を追求する場や時間を設けたことで、多くの児童が主体的に活動に取り組み、ICTの活用によりポイントの確認や自分の技を見直すことができた。課題解決のためには、ペアやグループ学習の場を取り入れることも必要である。
6.30	・授業改善について ・B訪問授業案について(村田教諭)	○授業実践の成果と課題報告とB訪問授業案について ・プレ授業、学年代表の授業実践についての成果と課題を共有し、改善点等を確認した。 ・B訪問授業案の基本構想について授業者より説明を受け、他教科や他学年との横断的な計画作りの必要性を確認した。
7.1	授桜2組秋元教諭 生活単元「自分や自分の周りの人のことを知ろう」	○体を動かして気持ちを切り替え、自分のよさに気付き、小集団でのゲームの約束を守り自立と社会性を育むことができたか。 ・個々のめあてを机に貼り「すぐ分かる」「見て分かる」ようにしたことや即時評価が自己肯定感につながっていた。互いのよさの共有により、各自のよさの位置付けと相互理解が深まった。「選べる自由」の設定が分かりやすいとより良かった。
7.2	授5年真下教諭 ＜ブロック代表＞ 体育「マット運動」	○課題解決の場をいくつか用意し、自己の課題に応じた解決の場を選んで、個別で課題解決に取り組ませる手立ては、めあてを達成するために有効であったか。 ・個別練習のポイントを意識させる工夫をしたことで、課題解決への取組が充実した。ICTの活用により自分の技を客観的に確認でき、また児童同士の対話的な交流の場面も多く見られ、めあての達成に近づくことができた。
7.9	授5年浅見教諭 算数「図形の合同と角」	○四角形の4つの角の和の求め方を考えるときに、課題を解決するために選択の場面を設けて取り組ませたことは、めあてを達成するために有効であったか。 ・前時までの取組が本時の助けになり、どの児童も課題解決に向けてスムーズに取り組めた。選択肢を示したことで自分の能力に合った求め方を見付けることができ、めあてを達成するために有効だった。
8.26	指B訪問指導案検討(村田教諭)	・単元計画、ねらい、本時の展開等について、全体会で検討した後に、各ブロックごとでも検討した。
9.8	全国学調の分析(全職員)	・全国学力・学習状況調査を活用した授業改善説明会(オンライン)
9.19	授3年吉澤教諭 ＜学年代表＞ 算数「大きな数」	○自力解決の場において、課題解決の方法を選択して説明させたことは、めあてを達成するために有効であったか。 ・2年生の学習内容を想起させたり、見通しをもたせるための方法を板書したりしたことで、自己の考えを表現する際の手助け

		になり、課題解決にもつながった。ICTを活用して個々の考えを共有したことも、めあての達成のために有効だった。
9.22	指]B 訪問指導案検討 (全体会)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の展開を中心に修正案について最終検討した。 ・授業研究会の進め方、役割分担、環境整備等を行った。
10.6	・ B 訪問 (市研究所授業公開) 授]2 年村田教諭 生活「つながる 広がる わたしの生活」	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの振り返りや見通しの活動での例を基に、新しい課題を考えたりグループで意見を交流したりしたことは、調べて分かったことを身近な人に伝えたいという思いを深めるために有効であったか。 ・既習の単元や前時までの学びを丁寧に振り返ったり、「選べる自由」がある考えの練り直しやグループ交流の場を設定したりしたこと、さらに教師が適切な軌道修正を行ったことが、めあての達成につながった。新しい課題を児童の言葉を反映させて端的に言語化していく活動には難しさが感じられた。
10.27	・ 研修の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の研修の成果と課題について ・成果と今後の課題について共通理解を図ることができた。
12.8	授]4 年高宮教諭 <ブロック代表> 算数「面積」	<ul style="list-style-type: none"> ○面積の求め方を考える場面で交流を行ったことや、実際に面積を求める場面で求め方を選択できるようにしたことは、めあてを達成するために有効であったか。 ・学習活動を精選したり、自己決定・自己選択の場面でその目的を丁寧に確認したりしたことで、面積の求め方を多面的に考える活動が充実し、めあての達成に近づくことができた。
12.15	・ 研修のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の研修のあしあとを振り返る。 ・今年度の研修を振り返るとともに、来年度の研修について話し合った。
1.13	・ 小中一貫に係わる研修	<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育に関する研修。 ・具体的な内容や考え方、今後の計画について共通理解を図ることができた。
2.2	・ 来年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○来年度の研修の方向性や組織について検討
2.16	・ 次年度の研修について	○来年度の研修の方向性について確認

※上記の他、各学年代表、「低」「中」「高」各ブロック代表のプレ授業を実施

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
9.1	カ 特別支援教育に関する研修①	群馬大学 霜田浩信教授	通常学級における配慮が必要な児童への支援などについて (教師からの質問への回答等、具体的場面での対応)
適宜	ア ICT活用	オンライン講座	教師の技能に応じた「ロイロノート」の活用の仕方について
11.10	エ 学校保健に関する研修	保健師	嘔吐物処理の仕方について
12.15	カ 特別支援教育に関する研修②	特別支援コーディネーター	子供臨床と発達障害について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	大竹 敏之	教諭	真下 慧大	スケルポートスタッフ	坪山 麻里沙
教頭	深津 知宏	教諭	小熊 瑞江	学校教育支援員	上野 優子
教諭	宮沢 菜穂子	教諭	小柳 和真	学校教育支援員	阿部 美緒子
教諭	富沢 訓子	教諭	鈴木 雅之	学校教育支援員	矢島 貴子
教諭	佐藤 亜里紗	教諭	秋元 葉子	生活相談員	五十嵐 千代美
教諭	村田 那菜	教諭	加藤 大禅	用務員	星野 海斗
教諭	小野 喜美恵	教諭	七五三木 幸世	A L T	ドーナ・ランドル
教諭	見城 朋子	教諭	青木 三重子	スクールカウンセラー	廣田 莉奈
教諭	吉澤 早紀	教諭	角田 明大	教諭	大塚 あゆみ
教諭	高宮 昭子	教諭	兵藤 泰明	教諭	石田 直行
教諭	藤井 陽樹	養護教諭	竹内 孝子	教諭	西野 広紀
教諭	浅見 敏子	主幹事務長	橋爪 徳子	教諭	小野 千恵美

川 田 小 学 校

所在地 〒378-0024 沼田市下川田町540番地
電話番号 0278-22-3056 FAX 0278-22-0786
校長名 今井 幸生

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) 基本目標・・・健康で豊かな人間性と生きる力をそなえた児童を育成する。
- (2) 具体目標・・・
 - ①かしこい子 (学ぶ意欲をもち、しっかり勉強する子)
 - ②やさしい子 (思いやりがあり、友達と協力できる子)
 - ③たくましい子 (明るく、最後まで頑張る子)

2 経営方針

(1) 学校経営目標

◎自己肯定感・自己有用感を高める教育活動を推進・充実させ、子供たちの成長のために教職員が一丸となってよりよい教育活動を行う。

(2) 目指す学校像

- ①児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業改善を推進する学校
- ②児童一人一人のよさを認め、温かな人間関係と学校生活に必要な規律を形成する学校
- ③児童の心身の健康を守り、安心・安全な学校生活を保障する学校
- ④よりよい教育に資するために、時間を意識した働き方を実行する学校
- ⑤家庭・地域とともに、温かく児童を育てる学校

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・「自律」「共育」及び「創造」「協働」「意思疎通」を意識した学校経営を行う。
- ・報告、連絡、相談を徹底し、教職員の縦と横の連携を密にしながらか学校組織の対応力強化と、職能成長を図る。
- ・時間を意識した働き方及び服務規律の確保について学校全体で共通の認識をもち、教育活動の質的向上と教職員の健康の保持増進を図り、ウェルビーイングな学校づくりに努める。
- ・コミュニティスクールの機能を生かし、育てたい児童像を保護者や地域と共有しながら特色ある学校づくりを推進し、児童の郷土愛を育む。

(2) 確かな学力の育成 【わくわくスクール沼田】

- ・学習規律を定着させて学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組む態度と、自己の学習を調整する力を培い、エージェンシーを発揮する「自律した学習者」の育成に努める。
- ・本時で働かせたい「見方・考え方」を明確にして授業を構想するとともに、問題解決的な学習過程を確実に実施することで、単元(題材)を通して育成する資質・能力を効果的に育む。
- ・指導のねらいを踏まえてICTを活用する場面を吟味し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・振り返り学習や家庭学習に計画的に取り組ませ、基礎的・基本的な事項を定着させる。

(3) 豊かな心の育成 【児童の命を守り、育てる教育】【家族で本を読みましよう】【ぬまた未来創造学】

- ・児童のよさを認め、励ます場面を意図的に設定し、「自己肯定感」「自己有用感」を高める。
- ・教職員が、各々の立場で児童理解を深めるとともに、「自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安全安心な風土」を視点に一貫性のある指導を行い、一人一人の自己指導能力を培う。
- ・挨拶、言葉遣い、きまりの遵守など、他者と協働して集団生活を営む上で必要な規律や考え方、望ましい行動様式について、それぞれの理由を児童と共有しながら定着を図る。
- ・朝読書や読み聞かせ、親子読書を通して様々な本に親しませ、豊かな感性を育成する。
- ・ふるさと自然、歴史、産業、人情、まちづくりの様子などを、地域にある資源と地域の人にふれながら、教科横断的、体験的、探究的に学ばせることで、児童の自己有用感を高める。

(4) 健やかな体の育成 【セイフティ沼田】【沼田市SNSルール】

- ・生活リズムチェックカードや川田小SNSルールを活用し、家庭と連携しながら感染症予防に資する免疫力の向上と、メディアに依存しない生活習慣の確立を図る。
- ・教科体育や川小カップにおいて、エージェンシーを発揮させ、運動に親しませながら、基本的な動きや技能の向上を図る。
- ・避難訓練の実効性を高め、児童の危機回避能力と、教職員の危機管理体制を向上させる。

(5) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通実践する。
- ・保護者との情報共有や関係機関との連携に努め、一貫した方針で切れ目のない支援を行う。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～	
主題	主体的に学び、考えを深め合う児童の育成
副主題	～算数科における課題設定と学び合いの場の工夫を通して～

児童の実態との関わり

・自分なりの考えをもち、学び合いの場面で伝えることができる児童は多いが、思考や理由を明確にして表現したり、友達の考えを注意深く聴いて、発言や質問をすることができる児童は少ない。友達と協働して課題を解決し、考えを広げたり、深めたりすることに課題が見られる。

指導の在り方との関わり

・学び合いの場が単なる発表で終わらないよう、多様な意見が出る問い、児童が解決したくなる魅力的な課題を工夫する必要がある。
・他の考えを理解する活動と、比較・検討、関連付けを図る活動を意図的に設定し、考えを広げ、深めるための支援を充実させる必要がある。

2 研修の内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】 課題解決に向け、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聴いたりして、それぞれの考えのよさや違いに気付こうとする子
- 【中学年】 課題解決に向け、自分の考えを根拠をもって伝えたり、友達の考えを聴いたりして、よりよい考えを導こうとする子
- 【高学年】 課題解決に向け、自分の考えを筋道立てて伝えたり、友達と対話したりして、よりよい考えや新たな考えを導こうとする子

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ◎課題設定の場で、日常生活や社会、数学の事象に関わる問いを見いだせるよう、教材の工夫や意図的な発問を行い、解決方法や、理由、性質関係等に関わる問いを教師と児童が共有する。
- ◎予想される児童の意識を具体的にし、交流場面では視点を明確にして、思考を深めるための発問や問い返しを工夫する。

3 研修計画・経過報告 〈裏面〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・教材の工夫や意図的な発問を行い、日常生活や社会、数学の事象に関わる魅力的な課題を設定することで、自力解決に粘り強く取り組み、交流場面で意欲的に考えを共有したり、比較したりする児童の姿が見られた。
- ・学年ブロックでプレ授業を行い、予想される児童の意識について検討することで、ねらいに結び付く問い返しができるようになり、児童が互いの考えのよさに気付いたり、考えを深めたりすることができるようになった。

○課題

- ・ねらいに迫るための対話的な活動の時間を十分に確保できる授業作りをする必要がある。
- ・児童同士でよりよい考えを練り上げられるように、交流の視点に沿って話し合うための手立てを工夫する必要がある。
- ・全ての児童が考えを深められるように、自分の考えを分かりやすく表現できるようにする必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・学年や学習内容に応じて、教師がリードしたり、ある程度の共通性をもたせたりするところ、児童に任せるところをよく吟味して、対話的な活動を充実させていく。
- ・授業のねらいや発問が適切に設定されているかを検証し、子どもの考えをつないだり、論点がぶれた際には軌動修正したりする発問ができるよう指導力を高めていく。
- ・数学的な表現や用語の意味をしっかりと捉えさせ、それらの言葉や、図や式を効果的に活用して端的に自分の考えを述べることを継続して練習させていく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業検討会

月日	研修計画 [内容]	研修報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4.21	本年度の研修について① 指 指導主事訪問 A について	○研修主題・内容・方法について ・昨年度までの取組及び今年度の研修の方向性を確認した。 ○指導案について ・指導案の形式、書き方、提出日、はばプラⅡの活用について確認した。
5.12	本年度の研修について②	○研修の内容・方法について ・共通実践する手立てについて再検討した。
5.26	指導主事訪問 A について	○日程の確認及び個人研修
5.30	授 指導主事訪問 A	○授業の成果と課題、校内研修の方向性について ・指導を受け、個々の目標を明確にした。
6.23	一人1授業について	○共通実践する手立てについて ・実践例を共有し、実施希望日について確認した。
6.24 7.1	1年算数 「あわせていくつ ふえるといくつ」 指 飯野教諭 (低学年ブロック) 授 〃 (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・教材の工夫や発問により、児童にとって必要感のあるめあてが立てられ、主体的に取り組んでいた。低学年の場合は、ある程度の共通性をもたせたり、任せる部分を厳選したりすることが必要である。
7.4 7.10	2年算数 「たし算とひき算の 筆算」 指 内田教諭 (低学年ブロック) 授 〃 (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・きめ細かな机間指導により、一人一人が自分の考えをもって交流活動に参加できていた。児童が主体的に課題解決を目指して考えを深めるためには、既習事項や数学的な表現を効果的に活用して交流させることが必要である。
7.14	指 指導主事訪問 B について (1) (全体会)	○B訪問の授業について ・単元や授業について、各ブロックで検討した。
8.27	指 指導主事訪問 B について (2) (全体会)	○B訪問指導案の検討 ・単元の確認、問題解決学習の流れについて検討した。
9.16 9.22	6年算数 「円の面積」 指 林み教諭 (高学年ブロック) 授 〃 (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・教材の工夫、ヒントカードや発展的な課題の準備により、児童が主体的に課題解決に取り組んでいた。全ての児童が学びを深めるためには、互いの考えを可視化し、数学的な表現を使って端的に考えを述べさせるための支援が必要である。
	指 指導主事訪問 B 指導案検討 (3) (全体会)	○B訪問指導案の検討 ・課題設定、交流の視点、問い返しについて検討した。
9.12 9.29	川田っこ2 算数 「場合の数」 指 河合教諭 (低学年ブロック) 授 〃 (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・日常生活に関わる魅力的な課題が設定され、ワークシートの活用など、個に応じた支援ができていた。数学的な用語を使って考えを述べられるようにするためには、問い返しによって用語の意味をしっかりと理解させる必要がある。
10.9	指 指導主事訪問 B プレ授業① 小野教諭 (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・板書計画の作成及び、予想される児童の意識を確認し、それに対する問い返しや必要な教材について検討した。
10.16	指 指導主事訪問 B プレ授業② 小野教諭 (低学年ブロック)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・前回のプレ授業で出された改善点を修正し、再度授業を行い、時間配分や授業の流れを確認した。
10.15 10.21	5年算数 「こみぐあいなどの 比べ方を考えよう」 指 星野教諭 (高学年ブロック) 授 〃 (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・数学の事象に関わる問いを教師と児童でしっかりと共有し、児童主体で課題解決に取り組むことができていた。時間内にねらいに到達するためには、もう少し具体的に見通しをもたせるとよいということが明らかになった。
10.23	3年算数 「分数」 授 指導主事訪問 B 小野教諭	○授業及び校内研修の成果と課題について指導を受け、改善点を明らかにした。 ・課題をより魅力的にするためには、教師がわざと間違えてそのギャップから、児童に考えを説明させることができるということ、同じ解説方法の児童同士や、自信のある解決方法で

			話し合わせることで比較が生まれること、重要な用語を提示して、その用語を使って説明させることで、用語の理解を促せることなどが明らかになった。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、単元の目標を明確にし、課題設定からまとめまでの学習過程を意識した単元づくりができるよう改善していく必要がある。
11.6 11.10	4年算数 「面積」	指 滝澤教諭 (高学年ブロック) 授 " (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・単元の目標を明確にし、課題設定からまとめまでの流れを意識した単元づくりができていた。重要な用語を提示して説明させることで用語の理解を促せた。課題をより魅力的にするための発問の工夫、対教師ではなく対話・交流で課題を解決するという意識の向上が必要である。
11.14 11.18	川田っこ1 算数 「面積」	指 林あ教諭 (高学年ブロック) 授 " (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・児童が課題解決したくなるような教材の工夫、個別最適な学びを意識した授業づくりができていた。児童に考えさせるための時間（自己内対話）をもう少し増やし、自分の力で課題解決する意識を向上させる必要がある。
11.20 11.26	川田っこ1 算数 「分数」	指 亀田教諭 (高学年ブロック) 授 " (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・児童の意識（間違い）を予想して教材や発問が準備され、少人数でありながらも、学び合いにより、課題解決ができていた。自分の考えを言葉で表現させる機会を増やすことで、対話・交流で課題解決するという意識の向上を図れるとよい。
12.12 12.15	6年算数 「拡大図と縮図」	指 吉野教諭 (低学年ブロック) 授 " (全体会)	○課題設定の場、予想される児童の意識、交流の視点と思考を深めるための発問や問い返しの工夫について ・日常生活に関わる問いを見いだせるよう、教材を工夫したことが児童の意欲につながっていた。具体物を使って答えを確認したことで、達成感やこの学習をするよさを感じられる授業になった。ねらいに迫るために、解決方法に絞って交流させる場面を設定できるとよいということが明らかになった。
1.26	CRT 標準学力検査の結果分析		○学習状況と指導の改善点を確認する。
2.9	今年度の研修のまとめ		○成果、課題、課題解決に向けての今後の取組を確認する。
3.9	次年度の研修の方向性について		○主題、副主題について協議する。

※資質向上研修

月日	研修計画〔内容〕		実施内容
	区分	講師	
5.7	ア 授業改善に関する研修	校内研修主任 飯野 みさほ	・算数科指導のポイントについて
6.9	ク 施設管理に関する研修	体育主任 星野 利彰	・プール管理の方法、機械操作について
6.16	エ 学校保健に関する研修	消防署員	・心肺蘇生法、AEDの使用方法について
8.25	ア 授業改善に関する研修	研修主任 飯野 みさほ	・学力向上対策フォーラムで示された3つの提言について
9.3	オ 学校安全に関する研修	安全主任 内田 貴大	・安全点検のデジタル化について
9.8	ア 授業改善に関する研修	学力向上 CO. 吉野 幸恵	・全国学力学習状況調査の結果及び課題の共有

〈 職 員 一 覧 〉

職名	氏名	職名	氏名
校長	今井 幸生	教諭	滝澤 のの楓
教頭	川端 郁男	"	亀田 裕子
教諭	河合 潔	"	片野 日佳梨
"	吉野 幸恵	養護教諭	三木 沙織
"	林 昭恵	事務主事	勝又 歩
"	飯野 みさほ	学校教育支援員	小野 輝美
"	林 美鈴	小学校生活相談員	星野 律子
"	小野 彩乃	非常勤講師	宇敷 輝男
"	星野 利彰	運転手	本多 昌一
"	内田 貴大	用務員	中村 和夫